

2014年3月31日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団
理事長 喜多悦子 殿

施設名 医療法人原土井病院

代表者 理事長 原 寛



2013年度ホスピス緩和ケアドクター研修助成
に係る報告書の提出について

標記について、下記のとおり報告いたします。

記

1. 研究・研修事業 2013年度 ホスピス緩和ケアドクター研修助成事業
2. 期 間 2013年 4月 1日 ～ 2014年 3月31日
3. 報 告 書
 - I 事業の目的・方法
 - II 内容・実施経過
 - III 成果
(上記I～IIIをA4縦・横書 6,000字程度にまとめる)
 - IV 収支報告
 - ①助成金の使途(人件費以外は領収書等の証憑書類を添付)
 - ②当該助成金に関わる部分の決算書「写」
(貴機関の全会計決算書ではなく、当該助成計上部分のみで可)
※決算期の関係で2014年3月17日(月)までに「写」を提出できないときは提出予定日を記入
(提出予定日 2014年 月 日)
 - V 研修修了者報告書

以上

緩和期癌に伴う痛み、全身倦怠感、呼吸困難などの症状をコントロールや患者、家族とのコミュニケーションの在り方を実際の病棟業務を通じて習得していく。

その他介護や音楽療法、アニマルセラピー、代替療法などの取組や近隣の在宅ホスピスに取組む医師とのネットワークに参加するなど指導医と共に緩和ケアの実際に学ぶ

当院のホスピスにおいて、実際の末期癌患者を指導医と共に主治医として受持ち、

他の医師、病棟看護師、ソーシャルワーカー、心理士、リハビリスタッフとコミュニケーションを持つことによって、研修内容の習熟を図った。

1 習得内容

1) 疼痛コントロールの習得

- ①痛みの適正な評価、鎮痛薬、鎮痛補助役について正しく理解し、処方すること
- ②薬物の経口投与や非経口投与を適切に行うこと
- ③神経ブロック、放射線療法や外科的療法の適応と限界を判断することができる。

2) 疼痛以外の身体症状マネジメントの習得

QOLの維持、向上を目的として以下の症状のマネジメント（予防、早期発見、適切なコントロール）を行うことができる。

① 消化器系

食欲不振、嘔気、嘔吐、便秘、下痢、消化管出血、腸閉塞など

② 呼吸器系

咳 呼吸困難、喀血、胸水、死前喘鳴など

③ スキンケア

褥瘡、末梢浮腫、皮膚痒痒症など

④ 腎・尿路系

血尿、頻尿、尿失禁、尿閉塞、排尿困難、水腎症、腎不全

⑤ 中枢神経系

転移性脳腫瘍、頭蓋内圧亢進症、痙攣発作、脊髄圧迫、四肢麻痺、錐体外路症状

⑥ 精神症状

抑うつ、適応障害、不安、せん妄、不穏、不眠

⑦ その他

腹水、胸水、心嚢水、悪液質、骨転移、高カルシウム血症、電解質異常、

上大静脈症候群、発熱と感染、栄養と水分補給、
歯科、嚥下訓練など経口摂取への努力

3) 緩和ケア医として必要なコミュニケーション技術と態度の習得

- ①患者の人格を尊重し、患者、家族の訴え、要望を傾聴し、実践していく
- ②患者及び家族からの信頼を維持しつつ患者にとって好ましくない診断や予後についても、適切に伝え、患者、家族の後悔の少ない環境づくりを可能にする
- ③患者や家族の悲嘆や感情の表出に伴う無理な要望、質問に対応することができ、恐怖感や不安感に対応することができる。

4) 緩和ケアネットワークの理解

- ①近隣在宅診療医や他のホスピス施設との協議、勉強会に参加し、地域資源を利用したより患者、家族の最後の要望に近い環境を提供する必要性を理解する。

2 習得方法

- 1) カンファレンス 入院検討会議、看護師とのカンファレンス、デスカンファレンスへの参加など
- 2) 学習会 基本的事項の学習、関連学会、セミナーへの参加
- 3) OJT 回心と病棟業務への参加